

平成 28 年度
コミュニティ活性化に向けた
ワーキングについて（報告）

区長会議 安全・環境・防災部会

ワーキング参加区

淀川区・東淀川区・住之江区

目次

内容

はじめに.....	1
1 目的及び進め方.....	2
2 駅前新築マンションの開発にともなう新旧住民の交流の取組（淀川区三津屋地域）.....	3
(1) 地域における防災訓練への呼びかけを通じた新築マンションへのアプローチ.....	3
(2) 具体的取組.....	4
(3) 今回の取組の振り返り.....	10
3 地域活動に関心が薄かった住民層に対する地域活動への参加促進の取組（住之江区清江地域）.....	12
(1) 地活協イベントへの参加促進を通じた「若い世代や比較的新しい住民層」へのアプローチ... ..	12
(2) 具体的取組.....	13
(3) 今回の取組の振り返り.....	18
4 その他.....	19
(1) 関連する取組.....	19
(2) 区と共有したデータや資料.....	26

はじめに

平成 26 年 10 月から安全・環境・防災部会（以下「部会」）のもとで設置した「コミュニティ活性化」に向けたマンション対策に関するワーキンググループでは、マンション居住者や地域団体が実践している「事例」をワークショップやフィールドワークを通じて掘り起し、それらの「事例」の「ポイント」を見出して可視化することで、区において働きかけを実践できるように取り組んできました。

平成 27 年度は、地域における人と人との「つながり」を「支え合い」に結び付けていくために、区役所（まちづくりセンターを含む。）が、マンション住民及びマンションを含めた地域住民にどのように関わっていけばよいのかについて検討を進めてきたところです。

そして、平成 28 年度は区役所（まちづくりセンターを含む。）が、これまで検討してきた内容を踏まえながら、私たち市職員が地域に働きかけていくことを目的として、その「プロセス」及び「進めていく中で得られた職員の働きかけ方のポイント」などを事例に沿って説明する内容となっています。

本報告書が、区職員のみなさんが地域に働きかける際の参考となれば幸いです。

1 目的及び進め方

(目的) **区役所（まちづくりセンターと連携）が地域に働きかけ、実践する事例をつくる。**

(進め方) 部会を通じて実施区を募集し、区長推薦のもと、実施区職員とともにワーキングを実施する。

(1)ワーキング実施区等について

実施区	候補地域数	テーマ	取組内容
淀川区	1地域	マンション住民を含めた地域のコミュニティづくりの活性化について	○市民局の資源提供 (1)各種統計データベースの活用 (2)アンケート調査の活用 (3)これまで蓄積した事例の活用 (4)団体向けに実施している支援メニューの活用 (5)業界団体等との連携の活用 など ○参加区でのワーキング 参加区の職員間での事例共有や情報交換会の実施
東淀川区	全地域の中からモデルとなる地域を創造する	防災・減災も含めた地域でのセーフティネットの構築 (地域ごとの保健福祉計画を策定するにあたり、区役所職員による地域への働きかけについて必要な情報を提供するなど連携して実施する)	
住之江区	3地域	地域活動に関わりの薄かった住民層に対する地域活動への参加の促進について	

(2)スケジュール

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◇WGの実施【6月～】												
・実施プランの企画（テーマ・エリア・進め方）			→									
・実践につなげるための検討とフィールドワーク等			→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
◇WG成果の報告												
・WG成果の区長会部会への報告												
・全区への事例共有などのフィードバック								☆				☆

2 駅前新築マンションの開発にともなう新旧住民の交流の取組（淀川区三津屋地域）

(1) 地域における防災訓練への呼びかけを通じた新築マンションへのアプローチ

ア 地域の概要

- 淀川区三津屋地域は、阪急神戸線神崎川駅の西側に位置し、駅前から南には商店街があり、昔ながらの懐かしい町並みを残す地域です。
- 駅前広場や商店街の店舗などをライブ会場とし、毎年バージョンアップを繰り返している三津屋音楽祭が開催されていることで知られている地域です。
- 現在、駅前に大規模マンション（完成時 745 戸）が開発され、順次入居も始まり、新しい住民とこれまでの住民とのコミュニティづくりがまさに行われようとしています。
- 三津屋地域の既存の全世帯が 4,700 世帯（H22 国勢調査）、今回のマンション戸数は 745 世帯であり、新たに増える世帯数は世帯数合計の 5,445 世帯の 13.7%をしめる規模となっています。

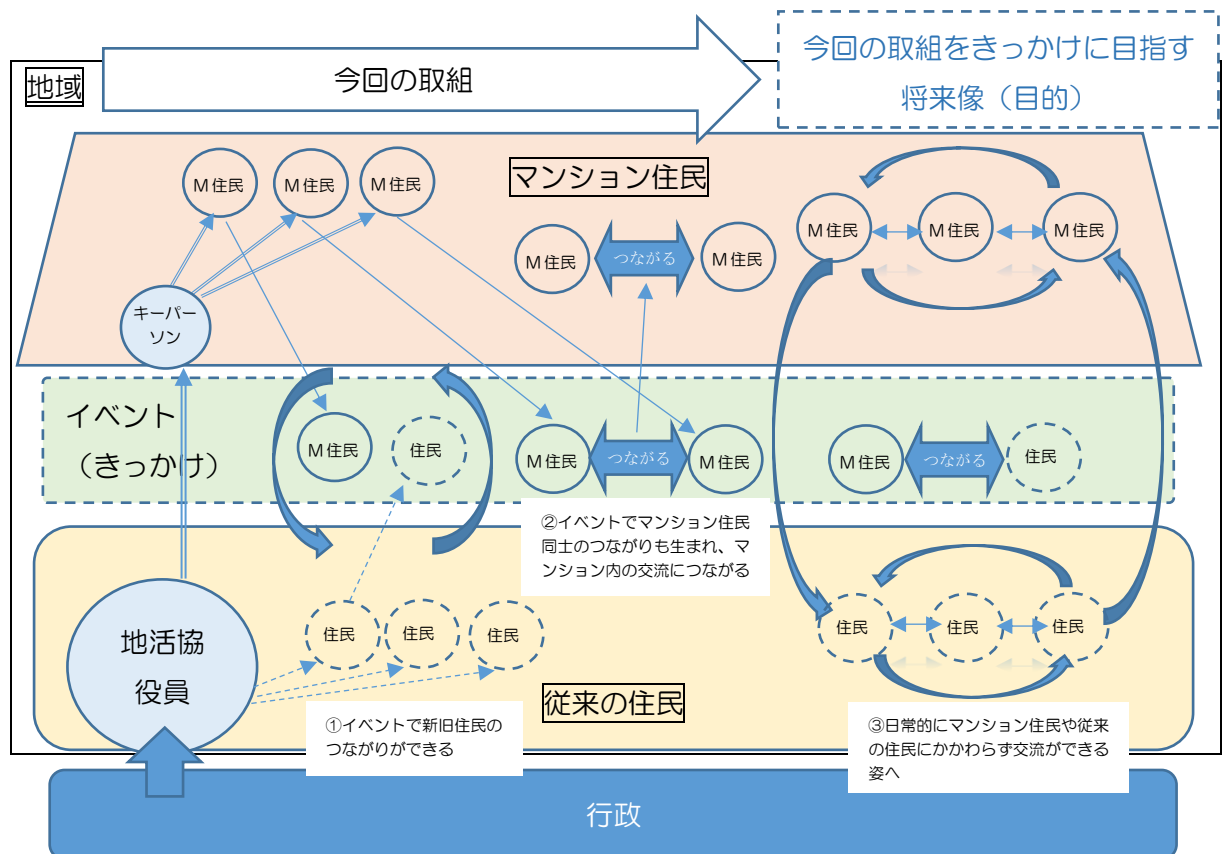
イ 取組の概要

- 今回の取組は、地域で行われる防災訓練をきっかけにマンションとマンション周辺住民との交流につなげるため、行政が地域に実際に働きかけるものです。
- 取組を進めるにあたっては、行政がどう働きかけていくかの視点を持って具体的取組を検討し、その成果を見ていくこととしました。

ウ 取組にあたってのプロセス

- 地域団体への働きかけは、次の手順としています。
 - ① 地域の情報やノウハウの収集
 - ② 地域の会長・役員へのアプローチ
 - ③ マンションへのアプローチ
 - ④ 防災訓練などのイベントの実施
- 上記②～④のそれぞれのプロセスにおいて取組に有用な情報やノウハウの提供を行うこととしました。

【将来を見据えた今回の取組内容イメージ図】



(2) 具体的取組

ア 対象地域の情報及び取組に有効なノウハウ等の収集

(ポイント)

- ・ テスクワークとフィールドワークで、地域に関するあらゆる情報を収集して、できる限り把握しておくこととしました。
- ・ また、働きかけに必要となる広報のノウハウを他の地域の事例から集め、関連するツールも調べることにしました。
- ・ テスクワークとして、データについては事前に収集しましたが、フィールドワークの一端としての現場での地域の様子は日常的に肌で感じたことを可視化してストックしていくことが重要と考えました。

① テスクワーク

(地活協の情報)

- ・ 地活協の概要がわかるもの（予算、決算、事業計画、行事予定、エリア地図、役員名簿など）
- ・ 地域の人口、人口構成、住居形態、世帯数などがわかるデータ
庁内ポータル「[客観的データによる地域分析ツール](#)」（地活協別データ）参照
- ・ Facebook から地域活動の様子

(マンションの情報)

- ・ マンションデータ (戸数、入居時期、管理会社、管理人有無)
マンション公式サイトで調査

(広報の重要性を理解していただくための情報)

- ・ [市政モニターアンケートデータ \(平成 28 年 9 月防災意識調査\)](#)

(ノウハウ)

- ・ QRコードを活用した防災訓練チラシ
- ・ QRコードを無料作成する方法

② フィールドワーク

実際に地域に出向き、地域の特性や実情をデータや地図と照らし合わせて現地の状況を知っておくことにしました。

- ・ **地域での人の往来**
商店街やスーパーなどの商業施設、鉄道などの交通機関における人の導線
- ・ **地域での戸建てやマンションなどの立地**
データや地図でイメージしていたことを確認
- ・ **施設の立地**
学校や集会所などの施設の立地を確認
- ・ **地域の行事 (音楽祭) の見学**
活動者の雰囲気、活動者の年齢層、参加者の雰囲気を確認
- ・ **マンションの様子**
集会所、ポスト、掲示板の位置や、管理人の有無などを確認
- ・ **住民等の声**
会長、役員、マンション管理人へインタビューをして確認

(地活協会長へのインタビューからわかったマンションと地域の関係)

- ・ 既に町内会加入も協議したり、マンション管理人と接点をつくっていたり、会長がマンション住民とのつながりづくりにむけた熱意をもっていること。
- ・ マンションモデルルームに、地域の広報誌「MITUYA NAVI」を配架するなど、マンション管理会社も地域活動の広報に協力的なこと。
- ・ 自律的に地域で策定された「三津屋地域福祉活動発展計画」においても、マンション住民との交流を課題と位置付けており、取組を後押しするには最適なタイミングとなっていること。

(活動の場「三津屋音楽祭」に参加してうかがえた活動の様子)

- ・ 三津屋音楽祭は、駅前や商店街などを会場とし、日常生活で誰もが通る立地を有効活用して開催されるため気軽に参加しやすく、地域活動を身近に感じることができるとなっていること。

(このプロセスでの振り返り)

- ・ 把握した地域の情報から、地活協会長の熱意があることやマンション住民との交流が地域課題として位置づけられていることなどがわかり、取組を進めていただけそうな地域だとわかりました。

イ 地域へのアプローチ

地活協の主体的な取組とするため、地域へのアプローチについては、マンション住民ではなく、区と普段からつながりがある働きかけやすい地活協の会長、役員の順番にアプローチしました。

ア) 会長・役員への働きかけ

① 課題や対応の必要性を共有することについて

地域役員から取組の理解を得るために、次のようなことをポイントとして働きかけました。

(ポイント)

- ・ **マンション住民へ地域活動の参加を呼びかけることの必要性を地域役員にあらためて理解してもらうために、マンション住民も含めた地域住民の交流は、行政も課題としていることを伝えること**
- ・ **地域役員と協力しあう関係をつくるために、マンション住民が入居するこのタイミングに合わせて行政も地域の取組に寄り添わせていただき、他の地域のモデルとなる取組としたい思いを伝えること**

(働きかけにより地域役員と共有できた内容及び次の展開)

- ・ 地域では既にマンションにアプローチ(※)しており、デベロッパー、管理人との接点があることがわかりました。
- ・ 防災訓練の計画があることから、マンション住民へのアプローチについては、防災訓練にむけて行うこととし、地域の自主性を尊重することに配慮しながら一緒に進めさせていただくこととなりました。

【※地域が既に行っていたマンションへのアプローチ】

- ・ デベロッパーを通じてモデルルームに地活協を紹介した冊子を配架
- ・ マンション管理人を通じた地域行事チラシ等のマンション内への掲示

② 戦略的なことや具体的な取組を検討することについて

地域の取組を効果的に進めるために、次のようなことをポイントとして働きかけました。

(ポイント)

- ・ **広報の重要性を地域役員に理解してもらうために、次のことを伝えること**

① 防災行事に「参加したことがない」市民の割合約7割、そのうち「あること知らない」割合約6割

出典：[市政モニターアンケートデータ\(平成28年9月防災意識調査\)](#)

② 幅広くみなさんに知ってもらうために、効果的な広報に取り組む必要があること

参加してもらうには知ってもらう必要があることを伝え、効果的な広報に取り組むことを伝える。

③ 伝える・届ける工夫(QRコード)

チラシにFacebookへつながるQRコードを入れる方法(QRコード作成ツール)を案内し、活動のみでもらったり、登録してもらうことで情報を届けたりする機会が広がる工夫ができることを理解してもらう。

- ・ **行政からも人と人のつながりづくりが大切であることなど、お伝えしたいことがあるため、マンション住民に働きかける際は、行政も同席させていただきたい旨を伝えること**

(働きかけにより地域で検討していただいた内容)

- ・ マンション住民にどのようにアプローチし、どのように参加してもらうかといったことについて検討していただきました。

(検討の結果、地域役員が取り組むこととなった内容)

- ・ QRコードを盛り込んだチラシを作成すること。(最初は「仕事が増えそう」と否定的であっても、大きな手間もかからず工夫できることを理解してもらえた。)
- ・ マンション管理人に理解を求め、チラシも渡して管理人から防災訓練参加を呼びかけてもらうこと。
- ・ 防災訓練では、地域役員がマンションへ住民を迎えに行き、避難場所である小学校までの避難ルートと一緒に案内しながら避難訓練を行うこと。

(このプロセスでの振り返り)

- ・ 取組を進めるうえで、地域役員に対してアンケートデータなど、客観的データを示して説明することは、理解を得やすく、説明の目的に応じた必要な情報をストックしておくことは非常に役に立つことがわかりました。
- ・ しかし、今回、地域分析ツールの客観的データについては、地域住民に示すことで主体的に取り組んでいただくための動機づけをするために活用することを念頭に置いていたが、活用できませんでした。その原因は、地域住民の議論の流れに沿って適切な時期に提示できなかったことにあります。
- ・ また、地域役員で広報の方法を主体的に検討する前に、他地域の広報のノウハウや事例などを提供してしまったことで、行政から地域への押し付けと映ってしまい、地域役員にとっては負担と感じられてしまう場面がありました。よって、準備しているノウハウや事例の提供のタイミングはよく考える必要があり、行政の押し付けとはならないよう、例えば広報について団体内で検討する場で案を出し合う段階で初めて提供することで、地域役員が求める情報として負担なく受け入れていただけるようにする必要がありました。

(1) 駅前マンション（マンション住民）への働きかけ

地活協会長がマンション管理人と接点があることから、地活協会長からマンション管理人にアポイントメントをとっていただいて行政も一緒にマンションへ出向き、次のようなことをポイントとして、管理人の協力を得るためのアプローチをしました。

(ポイント)

- ・ **マンション管理人に協力してもらえるようにするため、次のことを伝えること**

- ① **防災をきっかけに、マンション住民のつながりができること。**

多くの人が関心の高いテーマである「防災」をきっかけとして、マンション住民のつながりづくりとなることを説明

- ② **住民に参加してもらうためには、広報が重要であること。**

防災行事に「参加したことがない」市民の割合約7割、そのうち「あること知らない」割合約6割であることを伝えて広報の重要性を理解してもらう。

出典：[市政モニターアンケートデータ\(平成 28 年9月防災意識調査\)](#)

- ③ **人と人とのつながりができることは、住み良い環境へとつながる。**

そのことが結果的にマンションの資産価値の向上にもつながることを他区の事例をもとに説明

(管理人へのインタビューからわかったマンションの現状や課題)

- ・ 3月12日にはマンション内避難訓練があるので、3月19日の防災訓練の案内ができる良い機会がある。
- ・ まだ入居が一部しか完了していないため、管理組合は暫定的なものが出来上がったところで、マンションの町内会づくりについては、現在住民で話し合いが進んでいるところ。
- ・ 子育て層はこどもを通してつながり、プレイルームなどで不定期に交流している。
- ・ 高齢者の方が、地域で囲碁の打てる場所（居場所）などを探されている。
- ・ マンション住民に子育てサロンやふれあい喫茶、健康体操、映画上映会など人が集まることのできる場の情報が行き届いてはいない。
- ・ これから、マンション住民と地域の交流が進んでほしい。

(意見交換により取り組むこととなった内容)

- ・ 3月12日のマンション内避難訓練の際に、マンション管理人から3月19日の防災訓練の呼びかけを行うこと。
- ・ マンション内掲示板に、防災訓練のチラシを掲示してもらうこと。
- ・ 防災訓練当日は、地域役員がマンションへ住民を迎えに行き、避難場所である小学校までの避難ルートと一緒に案内しながら避難訓練を行うこと。
- ・ 地域役員側から管理人を通じて、地域における子育て層や高齢者がふれあう機会をまとめたチラシを、マンション住民に渡すこと。

(このプロセスでの振り返り)

- 取組を進めるうえで、管理人に対しても客観的データを示して説明することは、理解を得やすく、説明の目的に応じた必要な情報をストックしておくことは非常に役に立つことがわかりました。
- 働きかけた結果、地域役員の方やマンション管理人と広報の大切さについては共有できていましたが、実際の呼びかけを講じる際の手段については、地域役員からはマンション管理人の負担を考え、マンション管理人のできる範囲でお願いをされていたこともあって、今回は戸別配付を行うまでには至りませんでした。
- 今回の働きかけの反省点としては、広報の大切さの共有だけではなく、ひとりひとりに呼びかけるといった受け手に対する個別性を重視した方法について、行政が第三者の客観的な立場から、地域役員、マンション管理人に提案することが必要でした。

ウ 防災訓練の当日の様子

当日の取組を迎えるにあたっては、次のようなことをポイントとして働きかけました。

(ポイント)

- **地域役員、マンション住民と一緒に参加し、行動を共にすること**
- **参加したマンション住民にインタビューをして、なぜ参加したのか等を聞き取ること**
- **事前にインタビューをする事項を用意して当日を迎えること**

(ア) 当日の防災訓練で観察した交流の様子

- マンション前広場に町内会の防災リーダー1名が待ち受けされており、そこへマンション住民(女性2名)が参加されました。
- マンション住民同士は、12日に行われたマンション内避難訓練の参加者であり、初対面のあいさつを交わしておられたことからお互いの面識はない様子でした。
- 防災リーダーがマンション住民の部屋番号とお名前を聞き取るなどの確認を行ったのち、小学校までの避難ルートを先導し、案内をされました。(行政も同行)
- 小学校到着後は、マンション住民の方も町内会単位のグループに入り、ロープワークや心肺蘇生術などの各種訓練に最後まで参加されていました。

(イ) マンション住民へのインタビュー

参加されたマンション住民へ参加したきっかけなどについて、インタビューを行いました。

【防災訓練を知った方法】

- 12日のマンション内避難訓練に参加して、管理人からの呼びかけを聞いた。
- チラシについては、戸別配付ではなくマンション内掲示板に掲示されていた。(ス

マホで写真もとり保存した)

【防災訓練に参加しようと思った理由】

- ・ この地域のことを知らないため、知っておく必要があると思った。
- ・ マンションの立地が神崎川のそばにあるため、津波や水害が不安

【防災訓練の呼びかけ方法について】

- ・ 案内チラシを戸別配付すれば、掲示するだけよりも参加する人が増えると思う

(このプロセスでの振り返り)

- ・ 防災訓練に参加されたマンション住民の方は女性2名であり、多くの人に参加してもらう目的で取組を進めましたが、成果にうまくつながりませんでした。
- ・ マンション住民の方が仰るように、戸別配付による呼びかけができていれば、もっと多くの参加者が見込めたかもしれず、マンション住民へ参加を呼びかけるうえで、より受け手にとって個別性がある呼びかけ方法によることが重要であったことがわかりました。

(3) 今回の取組の振り返り

- ・ 今回の働きかけの実践は、防災訓練をきっかけにマンションとマンション周辺住民との交流につなげることを目的としてはじまり、2(1)ウで掲げた働きかけを実践するプロセスに沿って次のとおり働きかけることができました。
- ・ はじめに、「①地域の情報やノウハウの収集」では、デスクワークで地域情報をできる限り把握したうえで、地活協会長のインタビューや地域活動の様子をうかがうことで、行政からの働きかけを受け入れていただけそうな見込みをたてることができ、そのうえで取組を始めることができました。
- ・ 次に、「②地域の会長・役員へのアプローチ」では、マンション住民と周辺住民の交流が行政の課題であることを伝えることで、地域役員に普段から人と人のつながりをつくっていく取組の理解をいただき、防災訓練をきっかけとした地域活動への参加促進を進めていただくことにつながりました。その取組を進めるうえでは、行政から市政モニターアンケートデータを示して伝えることの重要性を理解してもらうことや、QRコードの活用事例を示して情報を届ける工夫をお伝えしたことで、マンションへのアプローチやQRコード入りのチラシ作成に取り組んでいただくことへつながりました。
- ・ 次に、「③マンションへのアプローチ」では、行政も一緒に同席させていただき、マンション管理人との協力関係をつくることができ、マンション住民に対して参加の呼びかけを行うことにつながりました。
- ・ しかし、「④防災訓練などのイベントの実施」では、多くの人に参加してもらう結果には至らず、広報手段としてより個別性のある呼びかけ方法につながらなかったことが、働きかけのうえでの反省点となったところです。
- ・ 今回の取組結果から、地域活動への参加を呼びかけるうえで戸別配付をするなど、より個

別性がある広報の重要性をあらためて考えさせられることとなりました。

- また、地域においては今回の取組で工夫されたような、QRコードを活用してFacebookを案内する方法は続けていかれるようですので、次のステップとしてはFacebookの中身をどのように充実させていけば、より効果的な広報となるのかについて、支援していくことも考えられます。
- 最後に、今回の取組では、地域側からアプローチをして交流のきっかけづくりを行いました。また、マンション住民にとって最も身近なつながりである、マンション内コミュニティをつくることを進めていく必要があります。これから始まるマンション住民の取組に行政がどう支援していけるのかが今後の課題となっています。

【参考資料1-1】 [客観的データによる地域分析ツール（三津屋地域）](#)

【参考資料1-2】 MITUYA NAVI

【参考資料1-3】 [三津屋音楽祭レポート](#)

【参考資料1-4】 防災訓練チラシ

3 地域活動に関心が薄かった住民層に対する地域活動への参加促進の取組（住之江区清江地域）

(1) 地活協イベントへの参加促進を通じた「若い世代や比較的新しい住民層」へのアプローチ

ア 地域の概要

- 清江地域は、地下鉄四つ橋線の住之江公園駅の南東、区役所の南側に隣接し、平成12年4月の清江小学校の開校とともに住之江地域から分割され、現在の活動単位となっています。
- 小学校の運動場は市内でも先進事例として芝生化されており、維持管理を地域で協力して行うなど、コミュニティづくりのための重要な資源となっています。
- その芝生化事業の立ち上げで集まった力を地域活動へシフトさせ、子育て層を中心とした地域活動が活発に行われていることから、これまで地域活動に関心が薄かった若い世代や比較的新しい住民にとって参加しやすい環境があります。
- 地域公共人材を活用した「地域の未来像を語り合う懇談会」を開催して、これまで地域活動に関心が薄かった住民とのつながりの必要性が地活協で共有されていることにより、地域住民が主体的に担い手確保に取り組んでいく環境が整っています。

イ 取組の概要

- 今回の取組は、住之江区ふだんのくらししあわせプラン（住之江区地域福祉計画）において、区内各地域における共通の課題となっている「地域活動の担い手不足」に対して、新たな担い手確保にむけた取組を、清江地域に働きかけるものです。
- 具体的には、これまで地域活動に関心が薄かった住民をターゲットに、イベントへの参加を促し、地域活動の参加につなげる取組を行っていただくよう働きかけることとしました。

ウ 取組にあたってのプロセス

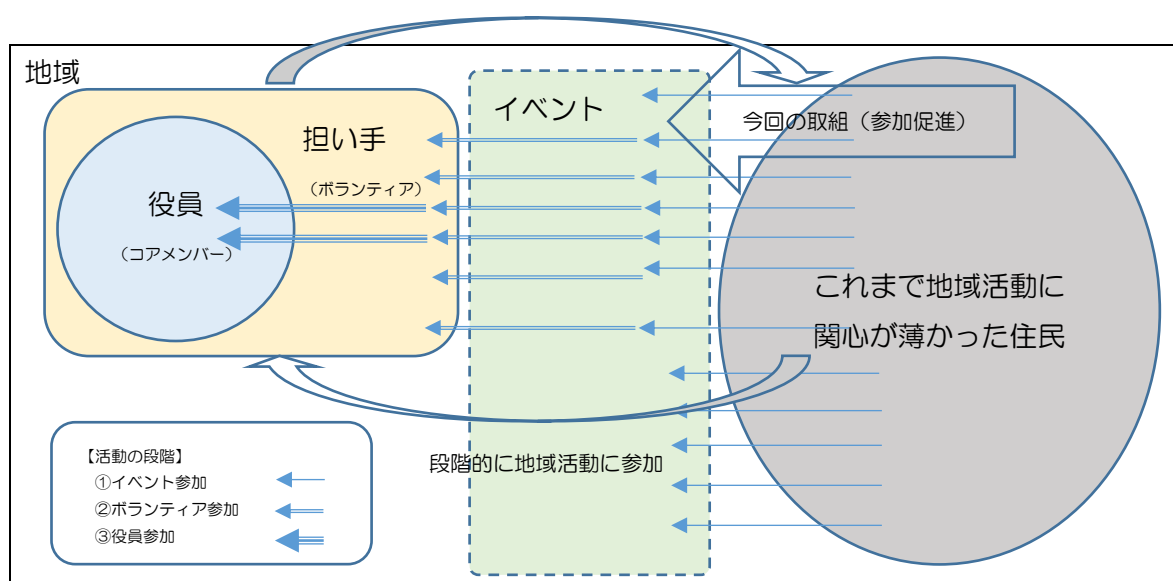
<基本的な考え方>

- 新たな担い手確保のためには、これまで地域活動に関心が薄かった住民層に地域活動に興味をもっていただく必要がある。そのきっかけとして、まず地域のイベントに来場者として「行ってみようと思わせる企画」の検討を促すよう働きかける。
- 積極的な情報発信を続けることで、地域活動への理解と関心につなげる必要があるため、活動についての広報の大切さを理解していただく。
- 新しいイベントを増やすのではなく、既存の取組を工夫することで今の担い手の負担を軽減するよう考慮する。
- 取組に対する地域の主体性を高めるよう、企画時点から幅広く担い手が参加し意見を反映できるしかけをつくる。

<プロセス>

- ・ 地域団体への働きかけは、次の手順としています。
 - ① 地域の情報やノウハウの収集
 - ② 地域の会長・役員へのアプローチ
 - ③ イベントの実施
 - ④ イベントの振り返り会議を実施
- ・ 上記②～④のそれぞれのプロセスにおいて取組に有用な情報やノウハウの提供を行うこととしました。

【今回の取組内容イメージ図】



(2) 具体的取組

ア 対象地域の情報及び取組に有効なノウハウの収集

(ポイント)

- ・ 事前準備で対象地域に関する情報を可能な限り収集して、地域の情報を充分把握しておくこととしました。
- ・ また、今回の取組に必要となるノウハウを収集することとしました。

情報やノウハウ

(地活協の情報)

- ・ 地活協の概要がわかるもの (予算、決算、事業計画、行事予定、エリア地図、役員名簿など)
- ・ 地域の人口、人口構成、住居形態、世帯数などがわかるデータ
庁内ポータル「[客観的データによる地域分析ツール](#)」(地活協別分析ツール)

- ・ **地域の課題**
住之江区地域福祉計画（ふだんのくらしのしあわせプラン）から「担い手不足」
地域公共人材を活用した地域の未来像を語り合う懇談会から「地域活動にかかわ
りの薄かった住民の活動への参加」

（ノウハウ）

- ・ アンケート用の白地図を作成する方法
- ・ QRコードを無料作成する方法

（このプロセスでの振り返り）

- ・ 「地域の担い手不足」や「これまで地域活動に関心が薄かった住民との交流」が課題として共有されてきた経過もあり、地域の主体的な取り組みを進めるタイミングとしてもちょうど良い時期であることがわかりました。

イ 地域へのアプローチ

まずはキーパーソンである地活協会長に、ワーキングの目的意識など説明し取組にかかる意向を確認したうえで、次に地域役員に働きかけました。

ア) 会長・役員への働きかけ

① 地域役員の主体性を育むための環境づくりについて

地域役員の主体性を育むための環境づくりのため、次のようなことをポイントとして働きかけました。

（ポイント）

- ・ **地域役員の話し合いが、既存イベントの役割分担を決める内容にならないよう、今取組に有効な内容の企画提案ができる場をつくってもらえるように働きかけること**

企画段階から幅広い担い手が参加し、意見を反映する場をつくる

- ・ **新規の活動を立ち上げるのではなく、既存の活動にアイデアや工夫を凝らすこととして、地域役員の負担感を軽減できるように働きかけること**

新規イベントは負担感が大きいので、取組は既存イベントでの工夫で行うことを勧める

（地域役員が取り組むこととなった内容）

- ・ 幅広く若手メンバー（青少年指導員・はぐくみネット）も企画段階から参加
- ・ 既存の秋まつりの機会を通じて地域活動に関わりの薄かった住民の参加促進策を検討

（役員の声からわかった地域の状況）

- ・ 町内会未加入マンションは、回覧板・掲示板が使えないため活動の広報が行き届きにくい。
- ・ 子育てサロンがあまり知られていないため参加が少ない。

- ・ 高齢者向けの活動についても参加が少ない。
- ・ 「活動を続けるためには担い手が楽しめること」を信条に担い手が活動を楽しんでいる。
- ・ 会長が若い人材に活躍の場を与えて、若い人材にやりたいようにチャレンジできるようにあたたかく見守り支えていることが、若い人材のやりがいにつながっている。
- ・ 担い手が楽しみながらやっている様子に惹かれて、新たな担い手が参加されている。
- ・ これまでも、こども、子育て層むけのイベントを充実させることで顔と顔の見える関係をつくり、そこからちょっとした手伝いを頼める関係を積み上げ、そのうえでスカウトすることによって、若い年代の担い手が発掘されている。
- ・ 水鉄砲大会では、親子の参加者をねらい、その親とつながり担い手を見つけている。
- ・ イベントのテント貼りは所属団体にこだわらず、みんなが自然と協力できている。

② より効果的な取組となるよう検討するにあたって

地域の取組を効果的に進めるために、次のようなことをポイントとして働きかけました。

(ポイント)

- ・ **広報の重要性を地域役員に理解してもらうために、次のことを伝えること**

- ① **ひとりひとりに届ける広報は効果がある**

情報を伝えるには、掲示板で掲示するだけでなく戸別配付することで、手にとって見てもらいやすくなることを伝える。

- ② **伝える・届ける工夫(QRコード)**

チラシに Web 上の地域カレンダーへつながる QR コードを入れる方法(QRコード作成ツール)を案内し、活動を知ってもらう機会を広げる工夫ができることを伝える。

- ・ **アンケートを活用して活動を振り返り、今後の活動につなげる場を持ってもらうこと**

来場者の「居住地・地域活動への関心・参加意欲」を把握し、振り返りの場を設け、次の取組につなげることを伝える。

(働きかけにより地域で検討していただいた内容)

これまで地域活動に関心の薄かった住民にどのようにアプローチし、どのように参加してもらうかといったことについて検討していただきました。

(検討の結果、地域役員と行政が協働して取り組むこととなった内容)

○地域活動に関心が薄かった住民に参加を促すための取組を実施

【ターゲット】情報が行き届きにくい主に町内会未加入マンション住民

既存のイベント「秋まつり」を活用し次の内容を実施してもらう。

- ・ 広報強化（チラシに参加賞を付与し町内会未加入マンションへ戸別配付・青パトでの広報）による参加者の促進
チラシに行事カレンダーへアクセス可能なQRコードを取り入れ、活動内容を広報
- ・ 来場者に「居住地・地域活動への関心・参加意欲」アンケート実施
- ・ アンケート結果を分析し、地域役員と今後の活動について考える機会をつくる

(このプロセスでの振り返り)

- ・ 新しいイベントを立ち上げるのは負担感が大きくなるため、既存のイベントの工夫を勧めることで、担い手の負担感も小さくなり、取組を始めるにあたっての理解が得られやすくなることがわかりました。
- ・ アンケートの内容については、参加者の「居住地」「地域活動の関心」など、地域役員も興味のある内容とすることで、取組全体への理解が得られやすくなることがわかりました。
- ・ 今回、地域分析ツールの客観的データについては、地域住民に示すことで主体的に取り組んでいただくための動機づけをするために活用することを念頭に置いていましたが、活用できませんでした。その原因は、地域住民の議論の流れに沿って適切な時期に提示できなかったことにあります。

ウ 地域活動に関心の薄かった住民の参加促進（秋まつりの成果）

(ア) 戸別配付チラシによる参加者

- ・ 町内会未加入マンションへ戸別配付チラシ（配付先 479 戸）により広報することにより、戸別配付チラシを見たうえで参加された方が 20 名いらっしゃいました。
- ・ チラシ配付により、来場者へつながっていることのみをとらえた反響率(※)は 4.2% であり、チラシ業界の Web サイトで解説されている一般的とされる反響率は 0.01% ~1.0%となっていることから考えると、少なくとも4倍以上の高い効果があったと考えられます。

※反響率とは（反応率ともいう）

チラシ配付により、問い合わせ、資料請求、来店、購買など何らかの反響があったことを示す割合。チラシ広告の Web サイトによると 0.01%~1.0%と言われている。

反響率=反響数÷チラシ配付数

(1) アンケートの実施

- まちづくりセンターブースを設けて、来場者アンケートを実施しました。
- ひとつは、地図上のお住まいの場所にシールを貼っていただく方法でアンケートを実施し、参加者の地域偏在について可視化しました。
- もうひとつは、記述式のアンケートも実施し、参加者の性別、年齢、家族構成、秋まつりを知った方法、地域活動の関心などについて全体参加者約 800 名中、310 名（回答率 38.8%）の回答が得られました。
- アンケートの結果については行政で分析し、振り返り会議にむけた資料を作成することとしました。

エ アンケート結果を活用した取組（振り返り会議の成果）

(ア) アンケート結果を活用して役員間で共有できたこと

- シールを使った居住地アンケート結果から、参加者の地域偏在が視覚的に一目でわかり、戸別配付していない地域からは参加者が少ないこと
- 地域活動の参加に興味がある人の割合（86.8%）が高く、地域活動の担い手となり得る人材が地域に居ること
- 担い手を募集するにあたって、時間が合えば活動に関わりたい方の割合が 57.6%であったことから、活動時間と内容を明確にした募集をすることが有効となる可能性があること
- 関心の高い活動のテーマは「イベント」であること
- 年代に関わらず地域住民に PC やスマホが普及していることから、PC やスマホを活用した広報ツールが有効となる可能性があること
- 地域外からの参加者も多いことが数字に表れ、地域内外の人に魅力のある活動（ひいては地域）となっていること

(イ) 振り返り会議における役員の声

- 参加者の地域偏在から、広報の大切さにあらためて気付いた。
- 戸別配付チラシの効果がわかり、他の活動でも試したい。
- 参加しやすくする方法として、まつりで新たな担い手だけのブースを設けてみたい。
- 活動内容と時間を明確にした募集や短い時間でその日限りのお手伝いの募集をする。
- まつりのようなイベント参加から日常的な見守り活動へ、いかに担い手をつなげていくかが、さらなる次の課題である。
- 広報ツールとして Facebook 導入も考えてみたい。

(このプロセスでの振り返り)

- 来場者アンケートの結果をもとにした意見交換では、今後の活動募集の際には、担い手の時間的制約に配慮して、たとえば活動内容と時間を明確にした募集や短い時間でその日限りのお手伝いの募集をするなどの意見が出ました。また、既存の担い手の視点が広がり、参加から参画につなげるために新たな担い手に寄り添う環境を考えていただける良い機会となりました。
- アンケート結果から、イベントに関してボランティア参加意識が高い人材が潜在的に多いことがわかり、これまで地域のイベント参加を通じて担い手を発掘してきた手法が有効であったことの裏付けにもなりました。

(3) 今回の取組の振り返り

- 今回の働きかけの実践は、これまで地域活動に関心が薄かった住民にアプローチし、地域活動の場への参加促進につなげることを目的としてはじまり、3(1)ウで掲げたプロセスに沿って次のとおり効果を確認することができました。
- はじめに、「①地域の情報やノウハウの収集」では、地域の状況を充分把握したことで、行政からの働きかけを受け入れていただけそうな見込みをたてることができ、そのうえで取組を始めることができました。
- 次に、「②地域の会長・役員へのアプローチ」においては、担い手の負担感を軽減しながら取組を進めていただけるよう働きかけることで、秋まつりにおいて地域活動に関心の薄かった住民の参加促進の取組を行っていただくことにつながりました。
- 次に、「③ 秋まつりの実施」では、チラシの戸別配付の結果、20名の参加につながり、アンケートについても秋まつり参加者800名中、310名(回答率38.8%)の回答を集めることができました。
- そして、「④ 秋まつりの振り返り会議を実施」では、アンケート結果によると地域活動への参加意識がある人が多いことから、担い手となる人材が潜在的に地域に居ることがわかり、また、担い手が参加しやすくなるための方法を考える機会となったことで、今後の地域活動の参加促進の工夫につながっていくことが期待できる取組となりました。
- 最後に、今後の地域活動の発展にあたっては、これまでも活発に行われているイベントをきっかけとして活動へ参加した人材が、日常的な見守りや防災活動などの担い手にもつながっていくことが、さらなる地域活動の活性化のために期待できるところであり、そのためには、行政としてどのような働きかけができるのか、さらに支援を深化する必要があります。

【参考資料2-1】 [客観的データによる地域分析ツール\(清江地域\)](#)

【参考資料2-2】 清江まつりチラシ

【参考資料2-3】 清江秋まつり参加者アンケート

【参考資料2-4】 地図アンケート(集計結果入り)

【参考資料2-5】 アンケート集計結果

4 その他

(1) 関連する取組

ア 取組事例の見学及び共有

(ア) 地域役員を対象にした広報講座（なにわ区ラボ）

（平成 28 年 8 月 9 日開催）

（概要） 浪速区まちづくりセンターが定期的に行っている勉強会「なにわ区ラボ」の見学を行った。当日は、浪速区の各地活協の広報担当者が集まり、広報活動の意義が説明され、それぞれの地域の広報活動について「紙媒体による方法」「ICT による方法」に分け発表したのち、意見交換をする内容でした。

なにわ区ラボを通じて、広報活動については、住民に活動を知ってもらうための「情報発信」、団体の透明性を高めるための「情報公開」の両面における重要性が説明され、「紙媒体」と「ICT」それぞれの活用事例紹介を通じて取組のコツが伝えられるとともに、参加者同士が質問しあうことを通じての学びが生まれる場となっていました。

参加者に「自分の地域への取り組みへのヒントにしてもらう」「模倣してみる気になってもらう」ために、まちづくりセンターから発表者に積極的に質問をすることで、参加者からも質問が出やすくなるように雰囲気づくりをされているなどの工夫がうかがえました。

【参考資料 3】 [浪速区まちづくりセンター作成 開催レポート](#)

(イ) 企業・NPO・学校など多様な主体との話し合いの場の設定（住之江区加賀屋地域）

（平成 28 年 8 月 2 日開催）

（概要） 住之江区で開催されている企業・NPO・学校・地域交流会から立ち上がった加賀屋地域の分科会（「次世代の活動者の発掘」をテーマとした取組の企画）に参加しました。

区が開催した区レベルの企業・NPO・学校・地域交流会をきっかけとして、地域レベルで企業、NPO、学校など多様な主体が協働して課題解決に向けた話し合いをする機会に結びついていました。

(ロ) 地域と企業の連携事例の区広報における拡散（淀川区三津屋地域）

（平成 28 年 12 月 1 日・2 日開催）

（事例の概要）

三津屋地域が、地元企業（株）ゴール：鍵と錠のメーカー）と小学校との橋渡し役となり、地元企業での社会見学をはじめて実現されました。（12 月 1 日、2 日の間、全 3 回に分けて三津屋小学校 3 年生が見学）

この取組は、これまで地域外で行われていた社会見学について、地域が小学校と企業との仲立ちをすることで実現されたものです。

当初は企業側で賛否両論もあったが、実際やってみると、こどもが見学するとあって、

作業場の整理整頓や安全確認を行うきっかけとなり、良い意味での緊張感がもたらされたと企業にとってもメリットを感じてもらえるものになっていました。

さらに、企業従業員の方には地域のこどもたちに関心をもってもらうきっかけとなり、普段のちょっとした見守りの効果も期待されるところです。

こどもたちにとっても、地域の企業が身近な鍵を製造されていることを知り、自分の地域に誇れる企業があると感じ、地域に愛着を持ってもらうきっかけとなる取組となっています。

最後に、地域にとっては、小学生の社会見学を通じて、企業と顔の見える関係づくりができるひとつの事例となり、さらにこの事例を足がかりとして、他の企業とのつながりづくりにむけても活用が期待できるものとなりました。

この取組については、区内の特色ある取組のひとつとして、他の地域にも広く知ってもらえるように淀川区の情報誌 YODO-REPO 平成 28 年 12 月号で紹介されています。

【参考資料 4】 [YODO-REPO H28.12 月号](#)

イ 防災・減災も含めたセーフティネットを構築するための取組（東淀川区）

(ア) 目的・進め方

防災・減災も含めた地域でのセーフティネットの構築のためのモデル事例を作成することを目的として、まずは、地域ごとの保健福祉計画を策定するにあたり、区役所職員による地域への働きかけに必要となる情報を提供するなど連携していき、そのうえでモデルとなる地域を選定して、事例を作成することとしました。

(イ) 区役所の取組等の調査

地域活動協議会の活動内容をうかがうため、区が地活協の担当者向けに行う広報活動事例共有会に参加しました。

また、地域担当者制のもと、地域担当職員間の情報共有をされている状況をうかがうため、地域担当者会議にも参加しました。

そのほか、ワーキングで収集した事例に興味を示された大規模マンションの町内会役員から依頼を受け、マンション管理組合役員会の場で事例紹介を行いました。

① 地域活動協議会広報活動交流会へワーキングの一環として参加（平成 28 年 6 月 22 日）

（概要） 地活協の広報担当者が集まったの広報活動事例共有会の見学を行いました。

当日は、広報活動担当者が集まり、自身の地域の広報誌の取組を発表する場となっており、広報により「行事への参加者が増えた」、「企業への手渡しにより協賛企業の拡がりがあった」などの効果が共有される場となっていました。その後のグル

ープワークでは「広報活動でやってみたいこと」をテーマに「学生と一緒に取り組みたい」「地域のヒーロー（人材）を紹介したい」などの意見交換がなされ、地活協の広報担当者同士が刺激を受けながら情報交換ができる場となっていました。

広報活動事例発表を通して、地域活動の活発な地域がうかがえ、また、活動が活発な地域でも広報担当者の担い手不足が課題となっていることがわかりました。

② 地域担当者会議へワーキングの一環として参加（平成 28 年 7 月 27 日）

（概要） 毎月第 4 水曜日に開催される地域担当者会議に参加し、地域と関わる職員同士の情報共有の場の見学を行いました。

当日は、地域担当者が自身の担当業務外の内容の相談を受けることを想定し、地域担当者が区役所のどこの部署と相談すればよいかをわかりやすくまとめた資料が共有されていたり、庁内グループウェアで「地域の便利情報」（地活協連絡会議等の資料、各地域活動協議会の会長一覧や規約、それぞれの地域特性を知るための統計情報）を取りまとめて区職員全体で共有されていたりといった工夫がされていました。

月 1 回の情報共有の場を設け、地域担当者のスキルを高める場となっており、地域担当職員が地域と積極的に関わっていくことができるようになるための取組となっていることがわかりました。

③ 大桐地域の大規模マンションにおける事例紹介（平成 28 年 7 月 24 日）

（概要） マンション内のコミュニティづくりを始めている大規模マンションの町内会役員から、過去にワーキングで収集した事例（浪速区のマンションで実施されている「子育て交流会」）の紹介をしてほしいと依頼があり、マンション管理組合役員会の場で紹介を行った後、マンションにおける現状の課題や今後の取組についての意見交換を行いました。

マンション内のコミュニティづくりが必要である意識は役員間で共有されつつありましたが、今後、具体的な課題の掘り起しや共有の場を設けて取組を進めるといった展開には繋がりませんでした。

（ウ） 東淀川区の取組におけるまとめ

現在、東淀川区では小学校区等を単位とした地域別の地域保健福祉計画の作成を各地域において進めていくため、各地域での取組事例の学習会や勉強会を開催するなどの働きかけに取り組まれています。

ワーキングとして、地域担当者会議などを通じて地域担当職員が必要とする事例や情報などの提供や、実際の地域における会議に向けての検討に加わり、その取組を連携して進めて

いくこととしていましたが、区役所の取組の調査や局からの事例や情報を共有するにとどまり、実際に地域へ働きかけるまでの取組にはつながりませんでした。

ウ 地域活動の担い手確保にむけた取組（住之江区）

「地域活動への参加促進」や「担い手の拡大」の課題に対して、区とまちづくりセンターが取組を進めていく中に市民局も加わり、これをワーキングとして位置付け、区と局で連携して進めてきました。

具体的には、地域活動に関わりの薄かった住民層に対する地域活動への参加の促進について、区内3地域（うち清江地域は前述）での取組を実施し、それと並行して、区内全地域の地域活動者を参加対象とする「地域活動への参加促進・担い手の拡大」をテーマとした実務者交流会「人材発掘編」を開催し、さらに、それらの取組の実践者をパネリストとしたシンポジウム「ちかつきょう人材発見ミーティング」を開催しました。

ア) 地域活動協議会・実務者交流会「人材発掘編」の開催

（平成28年10月～11月 全3回開催）

（概要） 毎年開催している地域活動協議会・実務者交流会「広報編」、「会計編」に続き、新たに、地域の若手メンバーを中心とした「人材発掘編」を開催。専門家（甲南大学 鈴木大介准教授）を講師に迎え、各地域の共通の課題である「地域活動の担い手発掘」をテーマに全3回にわたってワークショップを行いました。

（取組の経過）

【第1回の概要：平成28年10月21日】

ねらい参加者にとって、活動と一緒にやってみたい人物像に気づききっかけとする。

- ①「地域活動にほしい人材」をその理由とともに発表し、意見交換
 - ・（出た意見）頭の柔らかい力持ち、フットワークの軽い40代、学生など
- ②「活動に関心がありながら地域活動に関われない背景」をシートに記入し次回の話し合いのテーマに持ち越し

【第2回の概要：平成28年11月4日】

ねらい参加者にとって、これから活動に参加したいと思う人の視点で考えたとき、受け入れる側として配慮できることはどんなことなのか、あらためて気づく機会とする。

- ①前回持ち越したテーマ「活動に関心がありながら地域活動に関われない背景」を元に発表し、意見交換
 - ・（出た意見）知らない、面白くない、義務感が強すぎる、忙しい、後から入りづらいなど

- ②「これから参加したいと思う人の視点で、どんな壁があるのか」を発表し、意見交換
 - ・(出た意見) 時間拘束が長い、読めない、一部の人が内輪で楽しんでいる、誰と一緒にするかなど

【第3回の概要：平成 28 年 11 月 22 日】

ねらい 対象となる人物像のニーズを想像し、その人物を採用するための具体的なプランニングを検討することで、受け入れ側が配慮すべき具体的な行動について、楽しみながら考える機会とする。

- ①参加者が会社の人材開発担当の発令を受けるという設定のもと、「欲しい人材の採用」の企画書作成をグループワークし、発表した。
 - ・「学生」「力持ちの子育て世代」「子育て層」「頭の柔らかい人」の4グループに分かれてグループワークし発表

(取組の効果)

地域を超えて活動者が集りテーマに沿った意見交換をすることで、地域活動者間で学び合うことができるとともに、つながりが広がるきっかけとなりました。

また、担い手の見つけ方、受け入れ方を専門家のコーディネートののもと、参加者同士が楽しみながらプランニングすることを通じて、今後の地域活動の人材発掘のヒントを各地域へ持ち帰ってもらうことができました。

(1) ちかつきょう人材発見ミーティングの開催

(平成 29 年 2 月 28 日開催)

(概要) 区内 14 地域の共通の課題である地域活動を担う人材発掘について、モデルとした 3 地域の取組、人材発掘編を踏まえて、各地活協からそれぞれ 5 名程度に集まっていたいただき、専門家(甲南大学 鈴木大介准教授)のコーディネートのもと、モデル地域の活動者、人材発掘編参加者をパネリストとしお迎えし、シンポジウム「ちかつきょう人材発見ミーティング」を開催しました。

活動者のみなさんに「地域に人材はいること」に目を向けてもらい、「後輩づくり」をするうえで参考となるヒントを持ち帰ってもらうことをねらいとしました。

(ミーティングの内容)

- ①導入として専門家による「後輩づくりがなぜ必要なのか」意識付けのための講義
 - 活動を継続していくうえでの問題は、「担い手の高齢化」ではなく「担い手の固定化」が問題であり、そのために新しい人材(後輩)を発掘する、迎え入れるためにどんなことが考えられるのか、今回の取組の目的が共有された。

②「一緒に活動したい人材」「その人が活動に関われないネック」を考えるワークショップ

参加者に「一緒に地域活動したい人材」「その人が参加するネック」について各個人の意見をカードに記入してもらった。（人材発掘編で行ったワークの一部）

自分自身の経験や活動を振り返って、自分自身が望む人材を考え、参加者同士でも話し合いながら、その人材の視点からのネックを想像することで、次のパネルトークを聞く際のポイントをあらかじめ整理しておくことがねらい。

カードについては、一部分のみ講師から紹介されその場で共有し、残りはカテゴリ別に集計し、後ほど発表することにした。

③データ分析結果の説明

モデル地域のアンケート及び区民モニターアンケートデータから見える解説をまちづくりセンターから、次のとおり行った。

- ・モデル地域で実施したアンケートから

「地域にかかわらず住民の地域活動への関心は高い」



「地域に潜在的な人材が居ること」が言える。

- ・区民モニターアンケートから

参加しない人の理由として「活動を知らない」「時間がない」割合が高い



「活動を知らせる」「柔軟な時間で参加ができる」ことが参加しやすい環境につながる

④パネルトーク

モデル地域会長、人材発掘編参加者（若手）、地域活動に意欲的な企業、NPO、学生ボランティア代表をパネリストとして、地域活動参加へのきっかけ、これまで継続ができた理由をお話いただき、各地域活動者にどうしたら参加を促すことができるのか、そのヒントを知ってもらう目的で実施した。

各パネリストの話から、重要となるポイントをコーディネート役の専門家が拾い上げてわかりやすく解説し、会場参加者が学びを得る場となった。

⑤②で回収したカードを分類した結果の共有

参加者の記載したカードについては、ホワイトボードにカテゴリ別に分類して貼り出し、他の方の意見も参考としていただいた。（詳細の集計結果は後日地域へ配付予定）

（取組の効果）

今回の取組は各地域共通の課題である「担い手の確保」について、あらためて「新しい

人材を迎え入れるために」どんな「受け入れ方」が必要となるのかを考えるきっかけになりました。

また、それぞれ立場も違い、活動に関わった経緯も違うパネリストのみなさんの話を聞くことや、そこから見えるポイントについて専門家から解説を受けることで、参加者に数多くのヒントが得られる機会となりました。

さらに、活動者が集まる場を設定することで、パネリスト同士が今回のミーティングを通じてつながり、参加者がパネリストとして参加した地域貢献したいと考える NPO、企業、学生ボランティアの存在を知ったことで、今後のつながりが生まれる可能性が広がりました。

ウ) 住之江区における取組のまとめ

地域活動について、活動に参加していない人にとって「活動の内容を知らない」「拘束が長く時間が読めない」ことが活動から遠ざける原因として大きいことがわかりました。

そのように見える原因のひとつとして、地域団体の構成員や団体数が全体的に減少していることもあって、活動内容がエリア内の住民等に十分に知られていないことで、一部の固定した役員の運営、言い換えるとつながりの強い関係性が色濃くならざるを得ず、その結果閉鎖的な組織として捉えられてしまう一面が挙げられます。

よって、その解消を図るため、地域団体が実践することは、誰にでも開かれた活動であることを示すために「活動内容を知らせる」ことはもとより、「できるときにできる時間で参加できる」ようにすることで、ゆるいつながりから参加ができることも示すなど、誰にでも開かれた組織・活動であることを見せていく必要があり、そのための広報の工夫や口コミの効果は大きいと考えます。

また、ちかつきょう人材発見ミーティングのパネリストの話からも、団体間のつなぎ役は、区やまちづくりセンターに期待される部分が大きく、住之江区では「企業・NPO・学校・地域交流会」を定期的開催されてきたことの裏返しとも考えられるため、行政が働きかけてきた「場の力」による効果がうかがえました。

(2) 区と共有したデータや資料

取組を進めるにあたり、必要と考えられる関連情報や資料を収集して区と共有しました。

ア 実施区全体

- 東成区広報誌配布業務委託 募集要項・仕様書等 (平成 28 年 6 月 30 日)
【参考資料 5-1】地域課題解決型広報紙配布業務委託募集要項
【参考資料 5-2】平成 28 年度地域課題解決型広報紙配布業務委託仕様書
- SIB (ソーシャル・インパクト・ボンド) ワークショップ・イン京都の案内 (平成 28 年 11 月 17 日)

イ 淀川区

- 「あんなんこんなん誰でもできるボランティア」の案内 (平成 29 年 1 月 10 日)
- 市政モニターアンケート結果及び QR コード作成サイト (平成 29 年 2 月 8 日)
【参考資料 6-1】 [「防災に関する意識調査」\(平成 28 年 9 月実施\)](#)
【参考資料 6-2】 (QR コード作成サイト): [QR のススメ](#)
【参考資料 6-3】 [防災訓練チラシ例](#)

ウ 東淀川区

- 浪速区「子育て交流会」にかかるワーキング取材資料 (平成 28 年 6 月 7 日)
- 「ソーシャル・イノベーション・サミット 2016 in 京都」の案内 (平成 28 年 7 月 27 日)
- 安まちアーカイブデータからの統計データの入手方法 (市 HP 及び庁内ポータル掲載場所) (平成 28 年 8 月 4 日)
【参考資料 7-1】 [\(市 HP\) 大阪市の犯罪発生情報](#)
【参考資料 7-2】 [\(庁内ポータル\) 街頭における犯罪 市全体及び区別統計](#)
- 北区小地域福祉活動計画 (中津) の資料及び地域活動の事例の紹介 (平成 28 年 12 月 16 日)

○地域活動の事例 (庁内ポータル掲載)

- ① [三津屋音楽祭](#)
- ② [平成 27 年度 事例フィールドワーク概要](#)
- ③ [平成 26 年度コミュニティ活性化ワーキング事例フィールドワーク](#)
- ④ [平成 27 年度 新たな地域コミュニティ支援事業連絡調整会議](#)
【第 1 回 (平成 27 年 7 月 29 日)】
[地域活動協議会取組事例集](#)
【第 2 回 (平成 27 年 12 月 8 日)】
[地域活動協議会取組事例集](#)
【第 3 回 (平成 28 年 2 月 9 日)】
[地域活動協議会取組事例集](#)

[地域活動協議会を支援する中で困っている（困った）事例](#)

⑤平成26年度 新たな地域コミュニティ支援事業連絡調整会議

【第1回（平成26年7月4日）】

[地域活動協議会取組事例集](#)

【第2回（平成26年9月16日）】

[地域活動協議会取組事例集](#)

【第3回（平成26年12月25日）】

[地域活動協議会取組事例集](#)

【第4回（平成27年2月12日）】

[地域活動協議会取組事例集](#)

○地域活動の事例（大阪コミュニティビジネス情報局掲載事例）

[地域で活躍しているコミュニティビジネスの事例](#)

- 北区小地域福祉活動計画（大淀東、北天満、豊崎東）の資料
(平成28年12月26日)
- 港区地域福祉活動計画の冊子
(平成29年1月25日)
- 大阪市立大学地域連携センター「第4回 地域連携発表会 ～地域とともに。学び・活動する大学～」の案内
(平成29年2月6日)
- 北区主催「平成28年度小地域福祉プラン報告会」の案内
(平成29年3月3日)

エ 住之江区

- アンケート用白地図データ及び無料QRコード作成サイト
(平成28年9月2日)
【参考資料8-1】（白地図データ作成サイト）：[大阪市統合型GIS](#)
【参考資料8-2】（QRコード作成サイト）：[CMAN.JP](#)
- 他区の防災クイズ問題の提供、消防局、民間事業者防災クイズサイト
(平成28年10月13日)
【参考資料9-1】港区防災クイズ
【参考資料9-2】[西区防災クイズPART1](#)
【参考資料9-3】[大阪市立阿倍野防災センター 災害危機一髪ゲーム!](#)
【参考資料9-4】[「考える防災力検定」クイズ（安全と防災）/大阪ガス](#)
【参考資料9-5】[“もしも”に備える防災クイズ～NHK 東日本大震災アーカイブス](#)
- 講座「Facebookを活用してグループをアピールしよう！」の案内
(平成29年1月6日)